

東日本大震災・市民ができる支援は？

「今は物資より募金」

県防災士会相馬さんに聞く

東日本大震災から1週間以上が過ぎた。被災地のために何かできることはないかと考えている市民も多いだろう。災害ボランティアの心構えについて、NPO法人県防災士会の相馬多一郎さん(青森市)に聞いた。

(大友麻紗子)

被災地でのボランティア活動について相馬



相馬多一郎さん

さんは「受け入れ態勢が整っていないうちには、個人で現地に行くのは控えたほうが良い」と指摘する。

「早く現場に行つて体を動かしたい気持ちを抑えて、今自分のい

る場所のできることを考えてほしい。節電する、買い占めをしない、募金やチャリティーをすることが被災地のために力になる」と、相馬さん

は「自己完結」が原則。自分の水や食料、燃料、寝床などを確保できなければ、かえって迷惑になる。「もう少しで現地に入れるようになると思っているので、今は勝手な判断をせ

ず、自衛隊などの専門チームに任せるべきだ」と話す。

救援物資を送るのはどうだろう。相馬さんは「被災地に送るのは、物資よりお金の方がいい。物資は送る側の気持ちと受け取る側のニーズが合わない場合も多い」とアドバイスする。企業や団体はまとまった数の物資を送ることができると、個人からの少量の物資は仕分け作業が大変で、現場を混乱させる。被災地の状況によってニーズが異なるため、本当に必要な物を届けるためには募金が有効だとい

合施設・コロナワールド青森店を運営している。

▼NPO法人県防災士会が21日に募金活動午前11時から午後1時まで、青森市浜田のイトーヨーカドー青森店前と同市緑のサンワイド青森中央店前で。
▼アウガのテナントが募金箱設置 青森市

暮らし